

外務省  
附録

榎方千島交換條約本署取抄送号

附録調印後之儀ニ付上申

榎方千島交換條約昨二十二日皆取抄送日右  
條約附録書魯國領事公使スツルウ工氏トノ撰  
刺書整本日於外務省調印抄送後留條約書并附  
録得与抄送此致上申及然テハ右條約交換送  
之儀即今抄布告不抄本條約之原旨ハ之致交  
換之本條約并調印之附録本署共同公使ヨリ本  
國政府ト送リ同國帝ノ允許ヲ強致トニテ他  
方政府ヨリ日者令之同日各人民ト公布致シ度  
其以本ハ一紙ト不抄抄送致シ度方此程同公使  
ヨリ總々申立右ハ尤之次第ニ示致臨上關係重

外務省  
附録

大之事件ハ結果公布後マテハ滋重ハ秘及事交  
際上一般ノ成規ニモ及ビテ身同公使申立ニ通涉  
要外ハ成夜存及併テ以茲上申出也

八年八月廿三日

外務卿寺島宗則

大政大臣三條宗美殿

樺太  
千島  
交換條約

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本  
皇帝口口此書ヲ以テ宣示ス朕全露西亞皇帝陛下  
下ト望ヲ同シ朕樺太島サハリンノ内朕カ所領タル  
部カヲ全露西亞皇帝陛下ノ讓與シ全露西亞皇  
帝陛下ノ臣ト欲タル千島群島チシマノ全領ヲ  
朕ニ讓與スルヲ互ニ決シタルヲ以テ雙方ノ  
全權重臣以テハ年五月六日彼得堡ニ會シ臣條  
約ヲ締結調印セリ即臣條款左ノ如シ

大正  
正  
南

大  
文  
宮

大日本國皇帝陛下ハ  
全露西亞國皇帝陛下ハ  
方國雜領ノ地タルニ由リテ  
孫儀ノ根ヲ為テ現下方國皆ニ  
存スル交禮ヲ堅  
牢ナラシメシカ爲メ  
大日本國皇帝陛下ハ梅老島  
全露西亞國皇帝陛下ハク  
領地ノ推理ヲ互ニお交換スル  
大日本國皇帝陛下ハ海軍中  
大日本國皇帝陛下ハ

條約

大日本國皇帝陛下ハ  
全露西亞國皇帝陛下ハク  
領地ノ推理ヲ互ニお交換スル  
大日本國皇帝陛下ハ海軍中  
大日本國皇帝陛下ハ

大日本國  
全露西亞國  
條約

権公使迄四位後本む揚ニ至全権ヲ任シ  
 全魯西亜國皇帝陛下ハ大政大臣金剛石裝飾魯  
 帝照像金剛石裝飾魯國シント、アントレブス褒  
 牌シント、ウラジミル、一号褒牌アレキサントル、  
 子フスキー、褒牌白鷲褒牌シントアンナ一号褒  
 牌及シントスタニスラス一号褒牌佛蘭西國レ  
 ジウンド、オノール大十字褒牌西班牙國金膜大  
 十字褒牌澳州利國シント、エチー子大十字褒牌  
 金剛石裝飾索露生國里鷲褒牌及至他諸國ノ諸  
 褒牌ヲ帶ル公爵「アレキサントル、ホルチヤコフ」  
 ニ至全権ヲ任セリ  
 右名全権ノ右左ノ條款ヲ協議シテお決定ス  
 第一款 大日本國皇帝陛下ハ至後流ニ至ルニ

現々様方島嶼諸島ノ一部ヲ而欲スルノ権理  
 及君王ニ為スル一切ノ権理ヲ全魯西亜國皇  
 帝陛下ニ讓リ而今而後様方全島ハ悉ク魯西  
 亞帝國ニ為シ「ラパル」ハ海峡ヲ以テ有國ノ  
 境界トス  
 第二款 全魯西亜國皇帝陛下ハ第一款ニ記セ  
 ル様方島嶼諸島ノ権理ヲ受シ代トシテ至後  
 流ニ至ルニ現今而領クリル群島即チ第一「シ  
 ュムレ」第二「アライド」島第三「バラム」レ  
 島第四「マカニル」レ島第五「ラ子コタン」レ島第六  
 「ハリム」コタン「レ島第七「ユカルマ」島第八「シヤス  
 コタン」島第九「ムレ」島第十「ライコケ」島第十  
 一「マツア」島第十二「ラスツア」島第十三「スレト

子口及「ウレ、ル」島第十四「ケイト」島第十五「レ  
ハレ」島第十六「ハロトン」島第十七「チエルボイ」  
島第十八「ラット、チエルボエ」島第十八「ウルトツ」島第  
十九「大日本國皇帝陛下ニ譲リ而今以後」  
「ル」全島ハ日本帝國ニ爲シ東察加地方「ラパツ  
カ」岬ト「シエム」島ノ間ナル海峡ヲ以テ兩國  
ノ境界トス

第三款 本條記載各地並ニ其地產ハ其條約批  
准爲取換ノ日ヨリノ地ニ全ク新領主ニ爲ス  
ル者トス但テ其各地取換ノ式ハ批准以後  
ヨリ官員一名スハ數名ヲ撰テ取換トシ實  
地ニ會フト執リフヘシ

第四款 前條記載各地ニハ其地ニアル公  
同ノ土地人下手セサル地並一切公共ノ造  
墨屋、屯所、及ヒ人民ノ私屋ニ爲セサル  
建物等ヲ所領スルノ権理モ並存ス  
現下各政府ニ有スル一切ノ建物及地產ハ其  
ニ款ニ載スル條約ノ取換後取換ノ上其代  
價ヲ按畫シ其全額ハ其地ヲ新ニ領スル政府  
ヨリ出スモノナリ

第五款 交換セシ各地ニ住ム各民（日本人及魯  
人）ハ各政府ニ於テ左ノ條件ヲ保證ス各民並  
共ニ其本國籍ヲ保存スルヲ以テ其本國ニ  
歸ラント欲スル者ハ其地ニ留ルヲ執ラズ  
ヲ留ル一或ハ其交換ノ地ニ留ルヲ執ラズ

其生計ヲ充分ニ學ムラハルノ権理及至其不  
物ノ権理及至其信教ノ権理ヲ悉ク保全スルヲ  
得ル全其新領土ノ為民(日本及外人)ト其  
ナキ保護ヲ受ル事雖然其各民ハ其其ニ保  
護ヲ受ル政府ノ支配<sup>ガラスガレシ</sup>下ニ為スル事

第六款 樺太島 即薩哈ヲ讓ラレシ利益ニ酬ユ

ル為メ全魯西亞國皇帝陛下ハ次ノ條伸ヲ准  
許ス

第一條 日本船ノ「コルサコフ」港<sup>即「クシコン」ニ來</sup>  
ル者ノ為ニ此條約批准後取替ノ日ヨリ十ヶ  
年留港税モ海關税モ免スル「此年限満期ノ  
後ハ稅之ヲ延スモ又ハ稅ヲ收メシムルモ全  
魯西亞皇帝陛下ノ意ニ任ス

全魯西亞國皇帝陛下ハ日本政府ヨリ「コルサ  
コフ」港ハ其領事官ハ領事官任ノ吏員ヲ選  
クノ権理ヲ認メス

第二條 日本船及商人通商航海ノ為メ「コ  
ソ」海法港及東亞加、海港ニ來リ又ハ其海  
及漁業ニ沿テ漁業ヲ學ム者渾テ魯西亞最慈  
親之國民同様ナル権理及特典ヲ得ル事

第七款 海軍中將榎本武揚全權委任状ハ未タ  
到來セスト雖モ電信ヲ以テ其送致スル事ヲ  
確定セラル、ニ由リ其到ルヲ待タズシテ其  
條約面ニ署名シ其到ルヲ待テ各全權委任状  
ヲお示スノ式ヲ以テ其事ヲ記シテ以テ  
左券トスヘシ

榎本武揚

第一款 此條約ハ大日本國皇帝陛下並ニ全魯  
西亞國皇帝陛下ニお許可シ而シテ批准ス  
ルニ但シ各皇帝陛下ハ批准爲取換ハ各全權  
署名ノ日ヨリ六月廿日迄ニ於テ以テ可  
シ  
此條約ニ権カヲ附スル爲メ各全權各々姓名  
ヲ記シ總ニ署名ヲ行ハスル事ナリ

櫻本武揚

印

コルチヤコフ

印

條約ニ爲スル公文

日本國皇帝陛下ノ政府ト魯西亞國皇帝陛下ノ  
政府ハ本日兩國間ニ結ビタル條約第四款ニ  
載タル件ヲ完成セシ爲メ下名ノ者協儀ノ上左  
ノ條款ヲ定ム

第一款 魯西亞國政府ハ本條約ノ名ニ至キ日  
本政府附ノ建物及動産ヲ引取ヘキヲ以テ其  
代價ヲ日本政府ニ拂フ了ラ第後シ日本政府  
ヨリ報知セラレシ迄款即チ棟敷一百カ格四  
朝代價七萬四千零六格ニ同 日 本及動産ノ代  
價七萬九千六百格四回ヲ以テ其物價移賣ノ  
差存トス

第二款 本日取結ビノ條約第一款ニ掲クル各



地を取揚雙方役人ハ各地ニ在ル建物及勘定  
ノ面政府ニ仰スハキモノヲ控置シテ其代償  
ヲ決定スハシ

右雙方役人ヨリ各地並ニ勘定ニ産取渡  
及取揚代償セシ代償ノ面書寫ノ後魯西亞政  
府附ノ物品代償引キ剩餘金銀ハ各地并ニ  
勘定ニ産取渡ヨリ六ケ月内ニ此特  
使府ニ於テ日奉公使又ハ日本國皇帝陛下ヨ  
リ命ヲ奉ジタル役人ニ渡スハシ

第三款 本日結約ノ第五款中ニ陳スル交換セ  
ル各地ニ留ル各民ノ権理及地位並ニ各地ニ  
在ル夷族ノ儀ニ付テハ条約ニ於テ日奉政府  
魯西亞公使ト尚之ニ附録ス可キ條款ヲ

取極ハ可シソノ為ノ入用ナル金権ノ各公使  
ニ附スル者ナリ

第四款 条約ニ載タル儀定セシ件ハ同日記名  
セシ本條約ノ列ニ加ハタルモ同ニ権力ナル  
者ナリ

右ヲ確定スル為ノ下名ノ書寫公文ヲ作り以テ  
各公使ヲ調スル者ナリ

明治六年五月七日即一千八百七十五年

四月廿七日  
五月廿七日

此特使府ニ於テ

榎本武揚

(印)

ガルチヤコフ

(印)

大正  
政  
官

朕親之右倭約ノ通覽ニ所及ラ至當トス故ニ  
レ此書ヲ以テ之ヲ全ク推認批准シ天地ト悠久  
ヲ稱シ銘テ條約中所載ノ條款ハ正ニ之ヲ遂行  
セン事ヲ約ス右完備トシテ爰ニ朕カ名ヲ親記  
シ國璽ヲ鑄セシム

神武天皇即位紀元二千五百三十五年  
明治八年八月廿二日

清名 國璽

奉勅

外務卿寺島宗則

大正  
政  
官

係約附錄

大正  
十  
年

條約附録

長田鍾方郎譯

明治八年五月七日即一千八百七十五年四月廿  
 五日露國聖比特堡府ニ於テ調印シテ公ニ第ニ  
 款ニ基キ及同日調印ノ條約第五款ノ方ニテ完  
 全ナラシメ且施以セシカ爲メ雙方權典通ノ欲  
 地ニ在任セル各政府臣民ノ權利及利益分日  
 地方土人ノフニツキ日本皇帝陛下及全露西  
 皇帝陛下ハ爲メニ各令權委以テ命シタリ即チ  
 日本皇帝陛下ハ其外務卿古島宗則ヲ之レニ任  
 シ又全露西皇帝陛下ハ侍從亞國議院議長日  
 本在留箱根公使シヤル、スツルウエ、ヲ以テ此ノ  
 任ニ宛テ雙方委任ノ書ヲ照会シテ状實良好ニシ

長田鍾方郎譯  
 明治八年五月七日  
 日本在留箱根公使シヤル、スツルウエ、ヲ以テ此ノ  
 任ニ宛テ雙方委任ノ書ヲ照会シテ状實良好ニシ

テ至玉湯タルヲ見テ方ノ條件ヲ合議決定スル  
モノナリ

第一條

支樞通ノ各地ニ在ル日本及露西亞ノ臣民現ニ  
在ル地ニ在任セル地ニ在任セルト致フモノハ自個ノ  
職業ヲ十分営ムヲ得且其保護ヲ受クヘシ又現  
在所ノ地界隈中ニテ漢採及多敷採ヲ為スノ權  
ヲ得且其生涯中自己ノ礦業上ニ關スル諸稅  
ヲ免スヘシ

第二條

樺太リサカ島及クリル島ニ在任セルト決定スヘ  
キ各臣民ハ所々ノ權利ヲ有スヘシ又現今所持  
ノ不動產ヨリ收入スル物件及所々ノ權利ヲ獲  
明セル証書ヲ添ヒ送クヘシ

第三條

樺太リサカ及クリル島ニ在ル各臣民ハ自個ノ宗  
旨ヲ尊崇スル一金々自由タルヘシ又禮拜堂等  
及墓所ハ敷置スヘカラス

第四條

樺太リサカ及クリル島ニ在ル土人ハ現ニ住スル  
所ノ地ニ永住シ且其保護現領主ノ臣民タルノ權  
ナニ妨ニ爲シ其自個ノ政府ノ臣民タルヲ  
欲スレハ其居住ノ地ヲ去リ其領主ニ爲スル土  
地ニ赴クヘシ又其保護在來ノ地ニ永住ヲ欲ハ  
其籍ヲ改ムヘシ各政府ハ土人去就決心ノ爲メ  
其條約附録ヲ右土人ニ送スル日ヨリ三ヶ年ノ

大  
政  
常

猶茲ヲ與ニ懸クハレタリニケル年中ハ是迄ニ通り  
擇カ及クリル島ニテ沼タル特許及義務ヲ廢セ  
スレテ漁權及鳥獸權等他百利ノ發業ヲ容ハ  
ルナレトイハトモ總テ地方ノ規則及法令ヲ遵  
奉スヘシキニ述フルニケル年ノ初限過キテ行儀  
方立換迄ノ地ニ居住センラズル土人ハ總  
テ其地形欲主ノ臣民トナルヘシ

第五條

擇太島及クリル島ノ土人ハ各自個ノ宗廟ヲ崇  
崇スルヲ全ク自由タルヘシ又古堂及墓所ハ毀  
壞スヘカラス

第六條

此條約附録ノ右五ヶ條ニ載セタル儀之ノ件々

ハ明治二二年五月七日聖旨特優ニ於テ調印迄ノ  
條約ニ加ヘタルモノ同ニ権力アルモノナリ  
右ヲ確定スル為メ若金權委任條約附録ヲ作  
リ二通ト考シ以テ各其印ヲ調スルモノナリ

東京ニ於テ

明治二二年八月廿二日

日本外務卿 寺島宗則 (印)  
西國領事 侯セ、スル豆 (印)

明治二二年八月廿二日

明以八年八月廿八日 九月七日 庚 全九日 未

大臣 恭 崇 寺 四史 本 課 寺

考 儀 大儀 大限 崇光 板垣 寺島宗則

外務省上申梅方子島立橋條鈞本書考取智瀉号附  
録 福 印 福 儀 供 高 境 及 也

外務省  
上申梅  
方子島  
立橋條  
鈞本書  
考取智  
瀉号附  
録

外務省  
上申梅  
方子島  
立橋條  
鈞本書  
考取智  
瀉号附  
録